

お台場海浜公園内窮（2島）における鳥類のモニタリング調査 春季調査（4月）報告書

2025年5月 一般社団法人 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内旧防波堤において鳥類の利用状況や経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤2島及び周辺水域（周辺50m程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表1に示す。

表1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和7年4月21日(月)	8:00~14:00	晴れ

4. 調査方法

各調査項目において、倍率8~10倍程度の双眼鏡や倍率20~60倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、(2)~(4)の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2島に調査員を1名ずつ配置し、2島同時に実施した。また、補足調査として(5)の調査を実施した。

(1) 船上センサス

2島の50m程度沖を船舶により定速で周回しながら、2島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(2) ラインセンサス

2島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速1~2km程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に1本設定し、観察範囲を片側50m（両側100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の眺望のよい地点に定点を2点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

2島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

● 自動撮影カメラによる調査

第5回秋季調査（※調査回の定義については後述する）においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。なお、本調査で回収したデータの撮影期間は、カワウの糞がレンズ等に付着してカメラが作動しなくなったことにより前回調査から33日間であった（第10回冬季調査～第10回春季調査）。

● その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。

写真 1(1) 各調査手法における調査風景





自動撮影カメラによる調査



図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 10 回の春季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期	調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季	第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季	第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季	第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季	第 9 回	令和 5 年秋季～令和 6 年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季	第 10 回	令和 6 年秋季～令和 7 年夏季

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 * :留意種 *①:準絶滅危惧(NT)に準ずる。 *②:人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、10 目 21 科 26 種が確認された (表 4)。
- 確認種の約 5 割が水域及びその周辺に生息する種であり、14 種 (コチドリやアオサギ、カワセミ等) が確認された。旧防波堤内では、森林及びその周辺に生息する種として 6 種 (シジュウカラやツグミ、カワラヒワ等) が確認されたほか、都市部で見られる種として 3 種 (ツバメ、ムクドリ及びスズメ)、様々な環境で見られる種として 3 種 (キジバト、トビ及びハシブトガラス) が確認された (表 4)。
- 当該地域における渡り区別にみると、留鳥 (旧防波堤で一年中見られる種) の確認種数が最も多く、17 種 (イソシギやシジュウカラ、ハクセキレイ等) が確認された。次いで、冬鳥 (旧防波堤で冬に見られる種) が 6 種 (スズガモやユリカモメ、アオジ等)、夏鳥 (旧防波堤で夏に見られる種) が 2 種 (コチドリ及びツバメ)、旅鳥 (旧防波堤で春と秋に見られる種) が 1 種 (サシバ) 確認された。
- 重要種は、スズガモ、オオバン、カイツブリ、コチドリ、イソシギ、ウミネコ、ダイサギ、コサギ、トビ、サシバ及びカワセミの合計 11 種が確認された (表 4)。旧防波堤内では、砂礫地で休息するスズガモ、護岸で採餌や休息するコチドリ及びイソシギが確認された。旧防波堤外では、採餌や遊泳するカイツブリ、オオバンが確認されたほか、上空を飛翔するウミネコ、ダイサギ、コサギ及びサシバが確認された。旧防波堤内外では、護岸にとまり海域で採餌するカワセミ、海上および旧防波堤上空を飛翔するトビが確認された。なお、コチドリについては護岸で交尾が確認された。
- 外来種は確認されなかった (表 4)。
- 確認個体数の最も多かった種は、カワウであった。船上センサスでは、両島で合計 759 個体 (表 5)、ラインセンサスでは、旧防波堤で合計 202 個体が確認され、優占度は東島で 86%、西島では 78% を占めた (表 6)。また、定点観察調査では、旧防波堤で合計 560 個体が確認され、優占度は各地点で 82~93% を占めた (表 7)。両島ともに上空通過や広葉樹林内にとまる個体が多く見られたほか、東島では、護岸や干潟で休息する個体も多数確認された。さらに、両島の広葉樹林内では抱卵や育雛する成鳥や巢内雛、巣立ち間もない幼鳥も確認された。
- カワウに次いで確認個体数の多かった種は、アオサギであった。船上センサスでは、東島で 8 個体、西島で 3 個体の合計 11 個体 (表 5)、ラインセンサスでは、東島で 6 個体、西島で 6 個体の合計 12 個体 (表 7) が確認された。東島の広葉樹林にとまる個体が多かったほか、両島の護岸で採餌や休息、巣にとまる個体も確認された。
- 各調査手法のうち、確認個体数が比較的多かった種は、カルガモ、スズガモ、ヒヨドリ、スズメであった。カルガモは、船上センサスにおいて西島で 8 個体 (表 5)、定

点観察調査において東島で5個体(表7)、スズガモは、定点観察調査において東島で11個体(表7)、ヒヨドリは、ラインセンサスにおいて両島で合計8個体(表6)、定点観察調査において両島で合計7個体(表7)、スズメは、ラインセンサスにおいて東島で8個体(表6)、定点観察調査において東島で6個体(表7)が確認された。カルガモは、護岸で休息や海上で遊泳する個体が、スズガモは、上空を飛翔する個体が、ヒヨドリは、広葉樹林で採餌やとまり、上空を飛翔する個体が、スズメは、広葉樹林でとまりや上空を飛翔する個体が確認された。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表8に確認種、表9に船上センサス結果、表10にラインセンサス結果、表11に定点観察結果、表12にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第9回(前回調査)と第10回(今回調査)の確認種数は、第9回では東島で22種、西島で24種、合計27種、第10回では東島で20種、西島で22種、合計26種であった(表8)。第9回及び第10回で確認された共通種は23種であり、第9回の確認種全体の約8割であったことから、鳥類相に大きな変化は見られなかった。
- 第9回で確認されず第10回で確認された種は、カイツブリ、サシバ及びカワセミの3種であった(表8)。サシバは、各季を通して調査開始以来、初記録となる種である。また、カイツブリは、これまで冬季及び春季に記録されており、春季の記録は第8回の1例のみで、今回が2例目となる。カワセミは、これまで春季以外の季節で記録されており、今回が春季の初記録となる。
- 第9回で確認され第10回で確認されなかった種は、チュウシャクシギ、キョウジョシギ、オオヨシキリ及びアカハラの4種であった(表8)。そのうち、夏鳥のオオヨシキリ、冬鳥のアカハラは、これまで春季調査において不定期に観察されている種であり、旅鳥のチュウシャクシギ及びキョウジョシギは、これまで春季のみ確認されている記録が少ない種であることから、第10回では確認されなかったと考えられる。
- 第9回より第10回で個体数が増加した種は、カワウであった(表9、10、11)。主に広葉樹にとまる個体や東島の干潟と護岸で休息する個体、両島内外の上空を飛翔する個体が多く確認された。また、本種は、鳥の島両島を繁殖場所として利用しており、営巣数の合計は第9回で295巣、第10回で467巣と約1.6倍に増加した。営巣数を島別にみると、第9回では東島で166巣、西島で129巣に対し、第10回では東島で274巣、西島で193巣が記録され、東島で約1.7倍、西島で約1.5倍増加した。そのほか、西島では、第10回調査において初めてサクラ類での営巣が確認された。両島のサクラ類が生長したことで、営巣場所に利用されるようになったと考えられる。

- 第9回より第10回で個体数が減少した種は、ユリカモメ及びウミネコであった（表9）。両種は、両島周辺の海域を主に採餌場所として利用しながら移動しているため、今回は記録が少なかったと考えられる。

(3) その他

自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時に確認されたその他の生き物の記録を整理した結果、鳥類4目5科5種、哺乳類1目1科1種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではカワウ、アオサギ、トビ、ハシブトガラス及びツグミの5種、哺乳類ではクマネズミ属の1種（推定クマネズミ）の1種が確認された。
- 第9回春季調査に引き続き、カワウが嘴で巣材をくわえる様子が複数回にわたり撮影された。旧防波堤を営巣場所のほか、巣材の採集場所としても利用していると考えられる。
- 特記事項として、東島では第9回調査に引き続き、第10回春季調査においてもアオサギの営巣が確認された。第9回では3巣、今回は12巣が確認された。このうち、2巣で抱卵を行う成鳥2個体が確認されたほか、1巣で2卵とヒナ1羽が確認された。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り区分	調査時期		重要種選定基準				
					春季(4月)		①	②	③	④	
					東島	西島					
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○					
2			スズガモ	冬鳥	○					*②	
3	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○					
4	ツル	クイナ	オオバン	冬鳥		○				CR	
5	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	冬鳥	○					NT	
6	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥	○	○				CR	
7			シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
8			カモメ	ユリカモメ	冬鳥		○				
9				ウミネコ	留鳥		○				*①
10	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○					
11	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○					
12			ダイサギ	留鳥	○	○				NT	
13			コサギ	留鳥	○	○				VU	
14	タカ	タカ	トビ	留鳥	○	○				NT	
15			サシバ	旅鳥		○			VU		
16	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥		○				VU	
17	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○					
18		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○					
19		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○					
20		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○						
21		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○						
22		ツグミ	ツグミ	冬鳥	○	○					
23		スズメ	スズメ	留鳥	○	○					
24		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○					
25		アトリ	カワラヒワ	留鳥	○	○					
26		ホオジロ	アオジ	冬鳥		○					
合計	10 目	21 科	26 種	-	20 種	22 種	0 種	0 種	1 種	10 種	

注 1.分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2.重要種選定基準は表 3 に従った。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				春季(4月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	0	8	8
2			スズガモ	3	0	3
3	チドリ	チドリ	コチドリ	0	1	1
4		シギ	イソシギ	0	2	2
5	カツオドリ	ウ	カワウ	507	252	759
6	ペリカン	サギ	アオサギ	8	3	11
7			ダイサギ	1	0	1
8			コサギ	0	2	2
9	タカ	タカ	トビ	0	1	1
10	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	1	2
11		ムクドリ	ムクドリ	1	0	1
12		スズメ	スズメ	1	2	3
合計	6 目	9 科	12 種	7 種	9 種	12 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				春季(4月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	1%	0	0%	2
2	チドリ	シギ	イソシギ	0	0%	4	4%	4
3	カツオドリ	ウ	カワウ	132	86%	70	78%	202
4	ペリカン	サギ	アオサギ	6	4%	6	7%	12
5	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	0	0%	1	1%	1
6	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	1%	0	0%	1
7		シジュウカラ	シジュウカラ	2	1%	0	0%	2
8		ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	1%	6	7%	8
9		スズメ	スズメ	8	5%	0	0%	8
10		アトリ	カワラヒワ	0	0%	3	3%	3
合計	6 目	10 科	10 種	153	100%	90	100%	243
				7 種	6 種	10 種		

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体数
				春季(4月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	1	1%	4	2%		0%		0%	5
2			スズガモ	11	6%		0%		0%		0%	11
3	ハト	ハト	キジバト		0%	1	0%	1	1%		0%	2
4	チドリ	シギ	イソシギ		0%		0%	3	2%		0%	3
5		カモメ	ユリカモメ		0%		0%		0%	1	1%	1
6		ウミネコ		0%		0%		0%	2	2%	2	2
7	カツオドリ	ウ	カワウ	157	82%	187	93%	133	90%	83	88%	560
8	ペリカン	サギ	アオサギ	4	2%	2	1%	2	1%	2	2%	10
9			ダイサギ	3	2%		0%		0%		0%	3
10			コサギ		0%	1	0%		0%		0%	1
11	タカ	タカ	トビ	1	1%		0%	3	2%		0%	4
12			サシバ		0%		0%		0%	1	1%	1
13	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	1%	2	1%	1	1%	1	1%	5
14		シジュウカラ	シジュウカラ	1	1%		0%	3	2%		0%	4
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	1%	2	1%	1	1%	2	2%	7
16		ツバメ	ツバメ	4	2%		0%		0%		0%	4
17		スズメ	スズメ	4	2%	2	1%		0%		0%	6
18		セキレイ	ハクセキレイ	1	1%		0%	1	1%	2	2%	4
19		アトリ	カワラヒワ	1	1%	1	0%		0%		0%	2
合計	7 目	14 科	19 種	191	100%	202	100%	148	100%	94	100%	635
				13 種		9 種		9 種		8 種		19 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 8 版」(令和 6 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種

No.	種名	調査時期			
		春季(4月)			
		第9回(R5～R6)		第10回(R6～R7)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	○
2	スズガモ	○	○	○	
3	キジバト	○	○	○	○
4	オオバン		○		○
5	カイツブリ			○	
6	コチドリ	○	○	○	○
7	チュウシャクシギ		○		
8	キョウジョシギ		○		
9	イソシギ	○	○	○	○
10	ユリカモメ	○	○		○
11	ウミネコ	○	○		○
12	カワウ	○	○	○	○
13	アオサギ	○	○	○	○
14	ダイサギ	○		○	○
15	コサギ	○	○	○	○
16	トビ	○	○	○	○
17	サシバ				○
18	カワセミ				○
19	ハシブトガラス	○	○	○	○
20	シジュウカラ	○	○	○	○
21	ヒヨドリ	○	○	○	○
22	ツバメ	○	○	○	
23	オオヨシキリ	○			
24	ムクドリ	○		○	
25	アカハラ		○		
26	ツグミ		○	○	○
27	スズメ	○	○	○	○
28	ハクセキレイ	○	○	○	○
29	カララヒワ	○	○	○	○
30	アオジ	○	○		○
合計	30種	22種	24種	20種	22種
		27種		26種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		春季(4月)			
		第9回(R5~R6)		第10回(R6~R7)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	3	12	0	8
2	スズガモ	8	25	3	0
3	オオバン	0	1	0	0
4	コチドリ	0	2	0	1
5	チュウシャクシギ	0	2	0	0
6	キョウジョシギ	0	1	0	0
7	イソシギ	3	3	0	2
8	ユリカモメ	0	10	0	0
9	ウミネコ	0	8	0	0
10	カワウ	483	187	507	252
11	アオサギ	16	3	8	3
12	ダイサギ	1	0	1	0
13	コサギ	0	0	0	2
14	トビ	0	1	0	1
15	ハシブトガラス	2	0	1	1
16	ヒヨドリ	2	1	0	0
17	ツバメ	1	0	0	0
18	ムクドリ	0	0	1	0
19	スズメ	2	0	1	2
合計個体数		521	256	522	272
合計島別種数		19種	19種	19種	19種
合計種数		17種		12種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		春季(4月)							
		第9回(R5~R6)				第10回(R6~R7)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	2	1%	0	0%	2	1%	0	0%
2	スズガモ	9	7%	0	0%	0	0%	0	0%
3	キジバト	0	0%	3	4%	0	0%	0	0%
4	イソシギ	2	1%	0	0%	0	0%	4	4%
5	ウミネコ	6	4%	0	0%	0	0%	0	0%
6	カワウ	103	75%	60	87%	132	86%	70	78%
7	アオサギ	5	4%	0	0%	6	4%	6	7%
8	カワセミ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
9	ハシブトガラス	2	1%	0	0%	1	1%	0	0%
10	シジュウカラ	1	1%	0	0%	2	1%	0	0%
11	ヒヨドリ	1	1%	0	0%	2	1%	6	7%
12	ツバメ	1	1%	1	1%	0	0%	0	0%
13	アカハラ	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%
14	スズメ	5	4%	0	0%	8	5%	0	0%
15	カワラヒワ	0	0%	2	3%	0	0%	3	3%
16	アオジ	1	1%	2	3%	0	0%	0	0%
合計	16種	138	100%	69	100%	153	100%	90	100%
		12種		6種		7種		6種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果

No.	種名	調査時期															
		春季(4月)															
		第9回(R5~R6)								第10回(R6~R7)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度		
1	カルガモ	1	0%	4	5%	2	5%	5	13%	1	1%	4	2%	0	0%	0	0%
2	スズガモ	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	11	6%	0	0%	0	0%	0	0%
3	キジバト	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	0%	1	1%	0	0%
4	コチドリ	0	0%	2	2%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5	チュウシャクシギ	0	0%	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6	イソシギ	3	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	2%	0	0%
7	ユリカモメ	5	2%	1	1%	1	3%	2	5%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
8	ウミネコ	3	1%	2	2%	1	3%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%
9	カワウ	244	89%	54	64%	24	62%	16	40%	157	82%	187	93%	133	90%	83	88%
10	アオサギ	1	0%	1	1%	1	3%	0	0%	4	2%	2	1%	2	1%	2	2%
11	ダイサギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	2%	0	0%	0	0%	0	0%
12	コサギ	0	0%	2	2%	1	3%	0	0%	0	0%	1	0%	0	0%	0	0%
13	トビ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	3	2%	0	0%
14	サシバ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
15	ハシブトガラス	2	1%	1	1%	1	3%	0	0%	1	1%	2	1%	1	1%	1	1%
16	シジュウカラ	1	0%	3	4%	3	8%	0	0%	1	1%	0	0%	3	2%	0	0%
17	ヒヨドリ	2	1%	8	9%	0	0%	13	33%	2	1%	2	1%	1	1%	2	2%
18	ツバメ	2	1%	0	0%	1	3%	0	0%	4	2%	0	0%	0	0%	0	0%
19	ムクドリ	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20	スズメ	6	2%	2	2%	0	0%	0	0%	4	2%	2	1%	0	0%	0	0%
21	ハクセキレイ	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	1	1%	2	2%
22	カワラヒワ	0	0%	5	6%	3	8%	0	0%	1	1%	1	0%	0	0%	0	0%
合計	22種	273	100%	85	100%	39	100%	40	100%	191	100%	202	100%	148	100%	94	100%
		13種		12種		11種		7種		13種		9種		9種		8種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	ハシビロガモ												○
2	オカヨシガモ				○		○		○	○			
3	ヒドリガモ									○	○		
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	マガモ		○	○	○		○	○	○				
6	オナガガモ				○	○	○			○			
7	コガモ							○					
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○	
9	キンクロハジロ										○		
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ												
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○
13	カッコウ科の一種											○	
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	カイツブリ												
17	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ミミカイツブリ			○								○	
19	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○
20	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○	
21	チュウシャクシギ												
22	キョウジョシギ					○	○						
23	ヤマシギ												●
24	タシギ								○				
25	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	キアシシギ									○			
27	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	カモメ	○	○			○							
30	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○	
32	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○				
33	ウミウ												
34	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ゴイサギ					○							
36	ササゴイ		○										
37	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	チュウサギ									○			
40	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41	ミサゴ	○		○			○		○		○	○	
42	ハチクマ	○											
43	ハイタカ		○		○					○			
44	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46	サシバ												
47	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○
48	オオコノハズク												
49	カワセミ			○			○			○		○	
50	チョウゲンボウ		○				○	○					
51	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○				
52	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○		
53	カケス				○								
54	オナガ			○	○	○	○			○			
55	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	ヤマガラ												○
57	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ヒバリ						○						
59	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
62	オオムシクイ								○				○
63	オオヨシキリ			○		○				○	○	○	
64	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
65	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
66	コムクドリ				○	○							
67	シロハラ	○	○	○	○						●		○
68	アカハラ	○			○			○			○		
69	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
70	キビタキ	○				○							
71	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
72	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○
73	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
74	キセキレイ			○									
75	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
76	セグロセキレイ				○								○
77	タヒバリ						○				○		
78	シメ							○				○	
79	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
80	ホオジロ	○		○	○			○		○			
81	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
82	オオジュリン			○						○			
83	ドバト	○	○					○			○	○	○
合計	83 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		52 種		48 種	

表 12 (3) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 10 回)

No.	種名	調査時期							
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	ハシビロガモ	○	○						
2	オカヨシガモ								
3	ヒドリガモ		○				○		
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○
5	マガモ								
6	オナガガモ	○							
7	コガモ	○				○	○	○	○
8	ホシハジロ		○	○	○	○		○	
9	キンクロハジロ								
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ	○							
12	ウミアイサ	○		○	○	○	○	○	○
13	カッコウ科の一種								
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○
15	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○
16	カイツブリ			○		○		○	
17	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ミミカイツブリ								
19	ハジロカイツブリ	○	○	○	○	○		○	
20	コチドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
21	チュウシャクシギ		○				○		
22	キョウジョシギ		○				○		
23	ヤマシギ								
24	タシギ								
25	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○
26	キアシシギ								
27	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○
28	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○
29	カモメ								
30	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○
31	オオセグロカモメ	○	○						
32	コアシサシ								
33	ウミウ								○
34	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ゴイサギ								
36	ササゴイ								
37	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
39	チュウサギ								
40	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
41	ミサゴ							○	
42	ハチクマ								
43	ハイタカ					○			
44	オオタカ		●		○	○	○	○	

表 12 (4) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 10 回)

No.	種名	調査時期							
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○
46	サシバ								○
47	ノスリ	○	○		○	○	○	○	
48	オオコノハズク		●						
49	カワセミ	○							○
50	チョウゲンボウ				○				
51	ハヤブサ		○				○		○
52	モズ	○							
53	カケス					○			
54	オナガ								
55	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○
56	ヤマガラ								
57	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ヒバリ								
59	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
60	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	
61	ウグイス	○	○		○				○
62	オオムシクイ								
63	オオヨシキリ					○			
64	メジロ	○	○	○	○	○			○
65	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
66	コムクドリ								
67	シロハラ	○	○		○		●		
68	アカハラ				●		○		
69	ツグミ	○		○	○	○	○	○	○
70	キビタキ								○
71	ジョウビタキ	○	○		○	○	○	○	○
72	イソヒヨドリ	○	○	○	○		○	○	
73	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○
74	キセキレイ							○	
75	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○
76	セグロセキレイ								
77	タヒバリ							○	○
78	シメ								
79	カララヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○
80	ホオジロ			○					
81	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○
82	オオジュリン								
83	ドバト	○	○	○	○	○	○		
合計	83 種	41 種	41 種	33 種	38 種	37 種	38 種	37 種	35 種
		48 種		40 種		45 種		44 種	

注 1. ●:自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



写真 1 (1) 確認された主な鳥類



写真 1 (2) 確認された主な鳥類

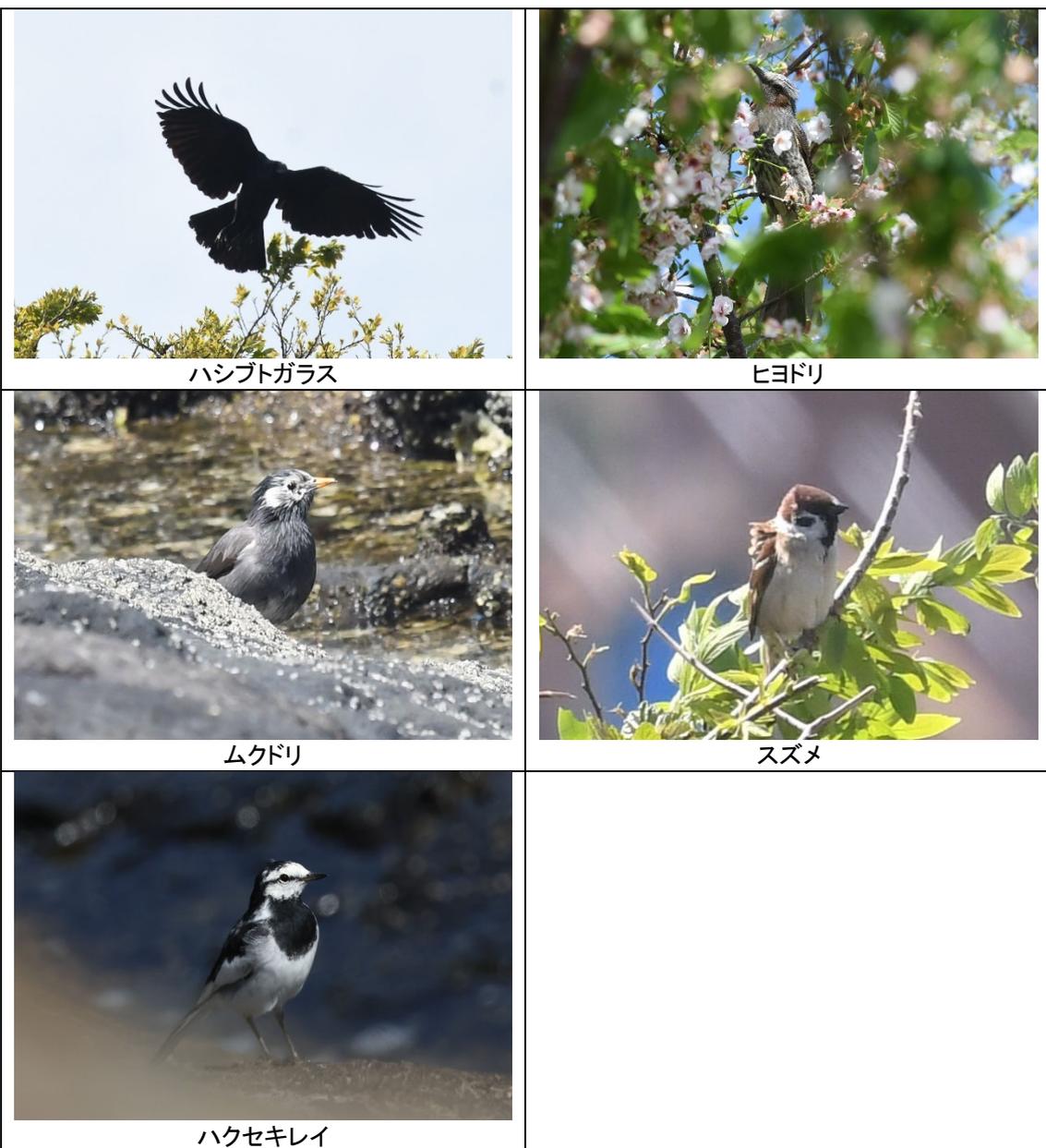


写真 1 (3) 確認された主な鳥類



カワウ(巣材をくわえる成鳥)



アオサギ



トビ(重要種)



ハシブトガラス



ツグミ



クマネズミ属の一種(推定クマネズミ)

写真 2 自動撮影カメラで確認された生き物